

紫西会報

第 51 号

発行所

茨城県筑西市下中山590

茨城県立下館第一高等学校

紫西同窓会

(編集兼発行責任者 中原孝朋)

TEL (0296) 24-6344代

FAX (0296) 25-4673

印刷所 戸頃印刷所

明日に向かって

紫西同窓会長 林 廣 明
(第四十一回卒)



令和2年に終わりを告げ、令和3年の幕が開けました。令和2年を振り返りますと、コロナが全世界の人々に大きな被害を及ぼしました。このような大惨事になるとは誰も予想することは出来なかったと思います。コロナの影響によって、大きな行事が次々と延期又は中止となりました。令和2年7月に開催予定であったオリンピック及びパラ

リンピックが延期され、そして、私達の身近なイベントであります夏祭り、花火大会及び盆踊り等が中止になりました。さて、私達の母校下館一高においては、令和2年4月から中高一貫教育制度が導入されました。コロナの影響の中での新入生の学校生活は、不安な出発となりました。しかし、新入生及び在校生の皆さんは、このような環境にも負

けず、元気に勉学に励んでいると聞き及んでおります。そして、今年4月には、中高生の新入生が入学致します。新入生も先輩と同様にコロナを乗り越えて、それぞれの目標に向かって前進することを期待しております。下館一高は令和5年(2023年)に創立百周年を迎えますが、同窓会は母校と協力しながら、百周年記念事業の準備に取り組んでおります。しかし、このようなコロナの状況下でありますので、予定された百周年事業の準備会が延期となり、筑西支部の設立及び創立百周年事業の準備をどのように進めていくのか会員の皆様と検討し、早急に対応しなければならぬと思っております。

さて、話は変わりますが、先日、私の事務所を訪れた年配のご婦人Aさんの話をしたいと思います。それは、今から十数年前の夏、Aさん夫婦が私の事務所を訪れました。Aさんの夫が経営する会社が破綻し、多くの債権者からの負債の請求が日に日に厳しく、電話にも出ることも出来ない状態になったとのことでした。

Aさん夫婦の自宅には、長男夫婦と孫2人の6人が同居しておりますが、家族全員が息を潜めて生活をしている毎日でした。私は、Aさん夫婦から、破産申立書の作成を依頼され、早速Aさん夫婦の破産手続の通知書を各債権者に送付しましたところ、それから1・2週間後には債権者からの電話等はなく、破産手続は順調に進められました。このような苦しい状況の中で、Aさんの孫である中学生のB君が、突然「僕は法律家になって困っている人を助きたい。」と云ったのです。Aさんは胸を熱くし、「頑張ろうね。」とB君に頷いたのです。それからAさんは、毎年盆暮れに私の事務所を訪れては、B君の近況を「高校に入学しました。」「高校を卒業し、お陰様で大学の法学部に入學しました。」と私に報告してくれました。B君は目標に向かって進み出したのです。平成28年3月、B君は、経済的に苦しい両親からの仕送りの受け、自分もアルバイトをしながら大学を卒業する

校長挨拶

校長 赤田部 清浩



紫西同窓会の皆様には、日頃から本校教育活動の発展のために、物心両面に渡るご支援を賜り、深く感謝申し上げます。

私事ですが、本校には平成十年より五年間奉職し、担任として二度卒業生を出しました。それ以来一度目の勤務となります。今年度四月に懐かしい校舎に入ると、往時が鮮やかに蘇ってきました。教員生活の最後に県西の名門校た

る本校に勤務できる事を幸せに感じ、職務に精励したいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

令和二年は新型コロナウイルス

私事ですが、本校には平成十年より五年間奉職し、担任として二度卒業生を出しました。私が本校に赴任する前の三月には、卒業式が在校生や来賓の方々の参列を控えて行われました。その翌日からは臨時休校措置を採らざるをえない状況になりました。明けて新年度、状況は変わら

ず幾多の制約に縛られながら始業式・入学式を挙行しました。

ご存じのように今年度から

附属中学校が開校され、二百四十二名の新高校生と共に四十名の初々しい新中学生が入学しました。学校では、始業式・入学式後、四日間だけオンライン授業や授業、課題テスト等を行いました。奇しくも本校創立記念日である四月十四日から臨時休校になりました。その間、新入生は学校に慣れるどころか友達を作る暇もなかったというのが実情ではなかったでしょうか。我々学校としても、刻々と変わる状況に対応すべく、知事が記者会見を開く度に、その対応のためにどうするかという会議を幾度となく開きました。校長として判断に迷う決断の連続であったと思います。

この期間、私は本校の教員の生徒に対する思いが、ほんとうに素晴らしいということを目の当たりにしました。まずは、生徒の皆さんへの学習の機会を保障するためにはどうしたら良いのかを真剣に考え、授業の動画を作ったり、オ

ンライン授業・SHRの実施のためにICTを習得しようとする姿が数多く見られ、他校に先駆けてこういった実践

を行えたことは校長として誇らしく思いました。また、生徒会や執行部の生徒たちが教員の期待に応え、その時々の状況を鑑みた上で創意工夫をこらし、恒例の館力祭・クラスマッチが実施できました。そして、県内公立高校では四校のみが実施できたそうですが、修学旅行が実施できたことなど、教職員、生徒、関係者が協力して、感染を防ぐための措置を講じながらも学校行事はできるんだ、ということがわかりました(もちろん、やむなく中止をお願いした行事もあります)。

このようなウィズコロナの状況において、高校では新学習指導要領導入による「総合的な探究の時間」が始まります。この時間は、「自己の在り方・生き方を考えるが、よりよく課題を発見し、解決していくための資質・能力を育成することを目指す」と謳われています。国は、高校教育においての従来の知識のイン

プット型だけの授業ではこれからの若者に与える教育として不十分であると考えています。本校では、この時間に関しでは、学年の枠を外して、興味関心が類似した生徒が集まる講座制を採ることにしました。その中で、「(一) 課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、(二) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるよう、(三) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現

しようとする態度を養う」ことを目標に、地域社会や国家に貢献できる生徒を育てていきたいと考えています。

未来を担う主体的に学ぶ意欲溢れる生徒を育成するために、地域(地元自治体等)、大学(研究機関)、そして地元企業(団体)との連携が喫緊の課題になります。同窓生が広くこのような場で多数活躍している本校は非常に有利です。今後とも「地域と共にある学校」として、本校が発展していくために、どうか同窓生のご支援、ご協力をお願いいたします。



特集記事

茨城県教育委員

中庭陽子先生

(第50回卒)

インタビュー



〈略歴〉

お茶の水女子大学文教育学部卒業
県立那珂湊二高校長
県教委高校教育課副参事
県立並木中等教育学校校長
茨城大学監事
県教育委員会委員

〈役職〉

つばインターナショナル
スクール理事
県退職校長会常任理事
水戸ユネスコ協会副会長

Q1 100周年に向けて下館一高・下館一高附属中に期待することをお聞かせください。

卒業して20年後30年後にキラリと光る人がいて、「下館一高卒業なんだって、さすがだね、がんばっているね」という会話が生まれたらいいなと思います。社会のさまざまな分野で、地元で日本のある所で世界のどこかで、いい汗を掻いている人を輩出する学校を期待しています。

「自分の想像を超える自分に出会う」というメッセージをHPで拝見しました。入学して50年経ちました。その頃想像していなかった自分に出会っています。館一で感じた「進取の精神」「意思表示の尊重」がどこかで私を支えてくれていたと振り返っています。

Q2 高校時代の思い出をお聞かせください。

50年前は、女子生徒が本

当に少なく、女子が参加できる運動部がほとんどありませんでした。中学生の時にはバレーボール部に所属していましたが、高校でも続けたいと思っていましたが、女子バレーボール部はありませんでした。体育教習室へ作ってほしいと友人とお願ひに行ったことが思い出されます。実現しませんでした。

私の育った町は進学塾も予備校もなく、大学受験は先生だけが頼りでした。研究者肌の個性豊かな先生方が多く勉強が楽しかったです。高校3年生の夏休みに自主登校をして自分で時間割を作り、空調設備のない時代でしたからとにかく暑い教室で、うちわ片手にスカートを膝までたくし上げ、問題集と格闘したことが懐かしい思い出です。

Q3 茨城県教育委員としての抱負をお聞かせください。

今、私たちはコロナウィルス感染拡大という想定外のことが起きている真っ只中に生

きています。これからも気候変動による災害の発生や人間の知能を超えるAIの出現など、激変する世の中が予想されます。そのような社会を生きていくことになる子供たちに願うことは、「こういうことではだれにも負けない」という自分の価値を創造して、どのような変化に遭遇しても乗り越えていくタフな心と生きる術となる知識・技術を身につけてほしいということです。

そのためには、一人ひとりの興味関心を大切にして伸ばしていく教育環境が求められると考えます。偏差値に振り回されることなく、得意な分野を大きく伸ばして、さまざまな分野を担う人が育つ環境を作れたらと願っています。まさに「一人一人が輝く教育」です。

Q4 6年間を見据えた中高一貫教育の魅力は何ですか。ご自身の経験を踏まえて、ご感想をお聞かせください。

県立並木中等教育学校の創立5年目に赴任しまして、卒業生を3回出した経験から思うことは、中学・高校と分断することがないため、進路実現に向けて6年間切れ目なく学びと体験を積み上げていくということだと思います。実際、入学時の成績からの伸びは大変大きいものがありました。科学研究・吹奏楽・短歌や感想文・英語ディベートなど得意なものを伸ばし受賞する生徒も多く出てきました。

教師側からすると、生徒の個性に寄り添いその成長に6年かけられるという時間的余裕、中学3年生で高校の学習への準備ができ高校の学習を加速的に進められる点、生徒側からすると、中学1年生の目の前に高校3年生の姿があり6年後の自分を描ける点、課題探究ゼミや講演会や見学会などに高校生とともに参加できる点、高校生が中学生とともに学校行事を行う中で先輩としての頑張りと年下への気遣いが生まれる点など、生徒たちの意欲を伸ばすのに有効な働きかけができる環境があると思えます。

Q5 中庭先生がお考えになる教育理念をお聞かせください。

「たくましい知性」と「しなやかな感性」を育てることです。講演で早稲田大学総長の田中愛治氏が語っているのを聞いた時、自分の思いを言葉にして表現してくれたと感心しました。また、東京大学前総長濱田純一氏も、「タフであれ、グローバルであれ」と入学式で東大生に語のかけていましたね。

「たくましい知性」とは答えのない問題に挑戦する力ではあり、仮説を立て、検証をして自分なりに解決策を考える力です。考える土台となる知識の獲得が必要になります。そのためには「知りたい、できるようにしたい」と思わせる環境づくりが重要であり、一流のものに接する体験、本物に接する体験、自分の限界に挑戦する体験、多様な文化に身を置く体験などを大切に思います。

「しなやかな感性」とは自分とは異なるものに敬意を持って接し理解をしようとする

感性です。グローバル化がすすまじいスピードで進んでいく世界では向き合う人は自分と同じ価値観や人生観でないことが普通です。自分とは異なった考え方や行動様式、価値観とふれあい、それらの刺激に晒される機会を持つことで、国際的な競争や協調の場面で活躍できる力と時代や環境の新しい変化にも対応できる力を養うことができるのではないかと思います。

Q6 下館一高の高校時代に戻れるとしたら、何をしてみたいですか、お聞かせください。

女子バレーボール部がなく断念したバレーボールを思いっきりやってみたいと思います。文武両道に悩みながら高校生活を熱く過ごしてみたいですね。

Q7 教職を志した理由をお聞かせください。

当時は自宅通勤が条件で地方出身の女子大生が就職できる企業は多くはありませんでした。学生課で「茨城に帰りたい」と言われたのが今でも忘れられません。そんな時代でした。これまで学んできた英語が直接生かせること、男女平等の職場として制度が整っていることなどを考えて、教職を選びました。15歳から18歳までの未来ある若者に夢と希望を語り続けてきた年月を振り返り、選んで良かったと今思っています。

Q8 学校は生徒たちにとって、どのような存在であるべきでしょうか。

一人ひとりがタフレット端末を持ち、自分で世界中とつながり学べる時が来ています。学校は「教える場」から「知りたい、できるようにしたいと思わせる場」に変わっていくことが必然的に起これると思います。そのためには「人に出会う、場所に出会う、学問に出会う、芸術に出会う、スポーツに出会う、遊びに出

会う」など、わくわくドキドキ感じっぱいのさまざまな出会いの場を用意することが求められていくのではないのでしょうか。そして「出会い」を自己との、他者との「対話」へと発展させることにより、学校は生徒たちに考えさせる存在になつてほしいと思います。

Q9 後輩に向けて、メッセージをお願いいたします。

「君の魂の中の英雄を放棄してはならぬ」というニッチェの言葉を送ります。従来の評価基準をもとに「どうせ自分はこれくらい」と判断していきません。自分の心の奥に潜んでいる「英雄」と対話を続け、自分の存在を確かなものにして、激変する社会を恐れることなく歩んでください。



新任の先生よりメッセージ

下館一高に赴任して

大坪 範子



なってからも芸術分野において、自然に会話できるような文化人・社会人を育成できるような授業を心がけているところです。グローバルな人材育成の観点からも、芸術領域にも豊富な知識を持つ生徒の輩出に尽力していきたいと思っています。

下館一高に赴任して



神長 寿夫

紫西会報
観点から、大学生・社会人と

私が今年度初めて下館の街にやってきて一つ困った事がありました。道に迷うのです。というのも私は北茨城の海側の生まれで、海が東、山は西という環境が私の常識でした。筑波山を代表に多方面に山並みを望む下館は、私には無意識にあらちもちろま西に見えているようです。環

境が変わると、常識も違ってくるものですね。

さて、現代の高校生を取り巻く環境は、コロナウィルス禍や情報技術の発展を機に社会の常識そのものが変容を続け、新しい形を模索しています。それに加えて、高校生という時期は人生の転機、変化の時です。今を生きる高校生は、自分と社会の大きな環境の変化に同時に対応せねばなりません。

環境が変われば道に迷うこともあるでしょう。しかし迷った分、世界は広がります。簡単に道に迷うような私ですが、迷う人のために道を探せる人であるよう努めていきます。

下館一高に赴任して



穴澤 奏未

下館の地に足を踏み入れて、早くも一年が過ぎようとしています。初めは知らない

土地での生活に不安がありましたが、電車すら通っていない田舎で育った私にとって、今やその住み心地の良さから離れたい場所となりました。

日々を過ごす中で、私は下館一高の生徒の自主性を尊重する校風をとても魅力的に感じています。コロナの影響でリモート授業になってしまった時にも自分で勉強計画を立てて机に向かい、部活動では仲間と切磋琢磨し合いながら各々の技術を高め、各行事の際には（これもコロナの影響で今年中止や変更になってしまった者も多いですが）より充実したものとなるよう生徒が主体となって企画・運営を行っている。自分達がやりたいことを実現できる環境で生活している生徒の皆さんの顔はとても輝いています。

教員一年目かつ社会人一年目の私にとって、下館一高での生活はこれまでに出会うことのなかった新たな経験でいっぱい입니다。これからも学び続け、生徒と共に自分自身も成長できるよう努力をしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

下館一高に赴任して

皆川 聡



(第五十四回卒)

再任用として、一年間母校で働くことになりました。コロナ下、マスク着用の毎日ですが、最近、生徒の皆さんの顔と名前が一致するようになり、ほっとしている今日この頃です。

『ぼつんと一軒家』の生活に憧れ、チェンソーを片手に、軽トラックで山野を駆け巡ることを人生の最終目標にしていたのですが、授業準備の勉強に充実した毎日を送っています。時々、授業後に質問されたりすると、とても嬉しくなります。人間は誰かに必要とされたとき、生きがいを感じます。人間は『何のために働くか』の答えを体感しています。退職して毎日自由に暮らすことは案かと思われすが、

下館一高に赴任して



倉持 雄大

他人とコミュニケーションもせずに、社会から切り離されていくことに不安も感じます。あと何年かですが、生徒の皆さんとともに自己の心身の成長をめざしたいと思っています。

岩井中学校から赴任致しました。初めて高校生を教える立場として不安や期待に包まれながら出勤した日のことを思い出します。今年はコロナウィルス感染症の影響で学校開始後すぐ休校になり、コロナウィルス感染症対策や動画配信といった例年と異なるスタートに戸惑いを隠せませんでした。その中で改めて感じたことがあります。それは、今まで当たり前であった対面して行う授業のすばらしさです。生徒とのコミュニケーションや理解度に合わせた

報 会 西 紫

授業を当たり前に行ってきた。しかしオンラインでの授業配信を行って初めて、『生徒』がいることによって行うことができていたのだと痛感しました。

また、下館一高の生徒は本当に真面目で礼儀正しく素晴らしい生徒がたくさんいます。感じます。このような生徒たちを教えられる喜びを味わい、当たり前に行っている授業をより大切にしながら生徒と共に成長していきたいです。今後ともよろしくお願い致します。

下館一高に赴任して

笠原 一昌



(第六十五回卒)

今年度より附属中学校に勤務しています。同窓会会員の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動に多大なるご支援をいただき、ありがとうございます。紙面をお借

りして御礼申し上げます。

さて、母校での勤務につきましては、大変うれしく感じるとともに、緊張感も味わっているところです。偉大な諸先輩が築いてこられ、百周年を迎えようとしている本校の伝統の重さを感じるからかもしれません。『館一』の名を汚さぬよう、精いっぱい努めたいと思いますので、よろしくご指導をお願いいたします。

「母なる学校」に戻ってきました。ひとくちに「母」と言いますが、慈母やら孟母やら、あるいは感母まで様々なタイプがあるかと思えます。私にとって母校「館一」は、貴重な「出会い」を与えてくれた存在です。知天命を迎えようとしている現在でもやり取りのある友人も得ました。先生方はもちろん、級友や上級生、下級生との交流が私を成長させてくれたのではないかと思います。在校生の皆さんにも、この学舎で人生を豊かに変えるようなめぐり逢いがありますようにお祈り申し上げます。

下館一高に赴任して

篠崎 明子
(第七十二回卒)



四月より下館一高・附属中学校に赴任しました。懐かしい母校に教員として勤めるというのは何とも面映ゆく感じます。

この一年、母校にいるからか、自分自身の中高時代のエピソードを思い出そうとすることが増えました。好き勝手に行動することもあったのですが、そうした場面の一つ一つを恩師たちは温かく見守っていてくださったのだなど、いまさらながら思い至ると同時に、いま自分が母校でその立場にあることに妙な感慨を覚えています。

生徒たちは当時の私たちよりもずっと深く物事を考えていると思います。一方で、周囲を慮りすぎて、思い切りが必要な場面で飛び出せない部分もあるようです。昔から自

由な校風で知られた館一で、恩師たちがそうして下さっていたように、私もまた生徒たちの「自由さ」を育て支える一助となるべく、教員として人間として成長してまいりたいと思います。

下館一高に赴任して

渡邊 康男



今年度水戸南高等学校より赴任してまいりました。昨年までは水戸に住まいを置き、十一年間郷里である結城を離れて暮らしていましたが、心機一転、県西に戻ってまいりました。新設校である附属中での勤務と言ったことはいささかプレッシャーを感じる年度初めでしたが、入学式の後、すぐにコロナウィルスの感染拡大を受け、休校となってしまいました。そこからはオンライン授業の導入、分散登校と目まぐるしく状況が動き、気がつけばすでに9ヶ月が過ぎようとして

下館一高に赴任して

中原 吉朋
(第七十七回卒)



下館第一高等学校附属中に国語科の教諭として配属になりました。振り返れば、教材研究と生徒指導、陸上部と文芸部の指導を行うち、あっという間に一年間が過ぎ去ろうとしています。

附属中の最初の授業で、私

は「六年間かけてゆっくりと自分らしさを出していこう。」と言いました。それは自分の足で立つ、つまり自立するという事です。人に寄りかからず、自分の足でしっかり立つて進む時、初めて誰かのために何かができ、そこに、本物の楽しさや幸せがあります。六年間かけて、生徒一人ひとりが、自分たちで問題を見つけてそれを解決できる力がつき、学校が楽しいと思っているということを実感し、自分であるいは自分たちで考えて、進んで勉強や行動をするような人財になって欲しいと思います。それが私の願いです。

未熟で至らない点もあるかと存じますが、生徒と共に成長していく教師を目指します。どうぞ宜しくお願い致します。



下館一高に赴任して

松下 興大
(第七十九回卒)



今年度より、下館一高附屬中に赴任いたしました。専門は理科です。物理が得意ですが、久しぶりの中学生の指導ということと、とても緊張しております。

前任校では、小学生の指導をしておりました。今、附屬中の目標として掲げられている探究活動や問題解決学習など、いわゆる「主体的・対話的で深い学び」「アクティブラーニング」の実現を目指しています。ICT機器の活用にも力を入れてきたため、その経験を生かしてこれからの社会で活躍できる生徒を育てていきたいと思っております。

紫西会報
附屬中学校では、生徒全員がクロームブックをもっているため、自ら情報を発信したり、幅広い交流をもったりできる環境があります。授業で

分かったことをフライド（パワーポイント）にまとめて友達に配信したり、友達の意見を集めてよりよい答えを見出したり。そんな活動を通して、学ぶことの楽しさや感動を感じてもらえるように日々指導にあたっています。

この学校を卒業して長い月日たち、こんな素晴らしい環境でまた学校に関わる機会を与えていただいたこと、心より感謝し、下館一高附屬中のために力をつくしたいと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。

下館一高に赴任して

星野 雅一
(第七十九回卒)



この四月より母校である下館一高に赴任しました。自分が生徒でいた時と同じ校舎なのですが、様々なところに変化があり、新しい発見に日々新鮮な気持ちでいます。

私が高校生の時には長年、売店で売り子をなさっていた名物おばちゃんがおりました。館一OB、OGの多くの方に売店のおばちゃんといえは伝わるのではないかと思います。高校生当時、私は弓道部に所属していました。弓道部では毎年、大晦日から元旦にかけて百八本、徹夜で弓を引く「百八射会」というイベントが行われていました。そのイベントは最後に羽黒神社に初もつでに行つて片づけて解散なのですが、なんと元旦の朝、五時に売店のおばちゃんが校内にいらしていました。あの時の光景は一生忘れられないと思います。あのおばちゃんほど館一を愛してらつした方々を私は知りません。これから教員としてあの売店のおばちゃんのように母校を愛し、生徒の思い出に残れる教員を目指し生徒とともに頑張つてまいります。よろしくお願ひいたします。

下館一高に赴任して

浅井奈々子
(第八十二回卒)



下館一高に赴任して9ヶ月が立ちました。本校に赴任することが決まったときは、まさかこんなに早く母校で教員生活を送ると思つておりませんでした。下館一高の附屬中学校の職員として配属されると聞き、下館一高が変わるうとしてこの変革期に、その一員として携わることができるのは、私にとって本当に光栄なことでした。

附屬中学校の日々は、一人一台のタブレットに対応し、またコロナ禍の状況もあって、低かった私のICTスキルが、格段に向上する機会となりました。さまざまなことが新鮮で、衝撃で、戸惑いも感じつつ、刺激的な毎日です。附屬中学生はいま、発達段階の途中で心も体も成長の真っ只中です。高校生を見

ていたときには違つものを感じます。彼らが悩みながらも前に進もうとする姿には、勇気をもらうこともあります。一期生の一員として、ともに学び下館一高での生活を楽しまながら、下館一高と附屬中が一体となつて盛り上がり上げていけるよう尽力していきたいと思ひます。今後とも宜しくお願いいたします。

下館一高に赴任して

石塚 美穂



今年度の人事異動で県西教育事務所より異動してきました。

県立高校で勤務するのは、7年ぶりとなりますので、毎日生徒のみなさんの元気な姿を見て、自分も元気をもらっています。

また、今年度より附屬中学校が開校し、入学当初中学生の初々しい様子には、異動したばかりで不安を感じていた

自分も励まされる思いでした。

下館一高の事務室では、主に収入や証明書の発行等に関する仕事を担当しています。

事務室の仕事は、生徒のみなさんに直接関係するものは、あまりありませんが、学校の施設そのものの維持や教職員に関すること等、広く学校全体を支える仕事を担っています。

こういった仕事が、少しでもみなさんの高校生活の充実の助けになれば幸いです。これからも、どうぞよろしくお願ひします。



進路指導の現状

学習進路部長 深谷 祐

【コロナとICT機器】

未曾有とは今まで一度もなかったことという意味です。昨年度末（令和2年度）よりコロナ禍のため進路行事の中止や変更が相次ぎました。特に学校の基本ともいえるべき授業ができなくなった期間が長かったことはまさに未曾有ともいえます。本校では授業の減少に対しては授業補充日を設けて授業を行いました。さらに4月以降の休校期間中にICT機器を活用したオンライン授業を始め、結果として動画353本、双方方向のオンライン授業12本、オンラインホームルーム240回が配信され、これ以外にも課題の指示や質問もメールやGoogle Classroomのコメント欄経由で行われ、休校期間中の学習の遅れを最小限にするように一挙にICT教育の活用が進みました。これはご家庭の通信環境が整っていた

お蔭でもあります。

この変化には大学の方がいち早く対応していました。昨年10月の文科省の調査によると、講義の半分以上をオンラインで実施する大学は187校（全面オンライン1校・ほぼオンライン64校・東大・早稲田・上智大などの首都圏大規模校）に上ったとのこと。そのなかのある大学（理工学部）では、講義はすべてリアルタイム型（ZOOM利用の生配信）、オンデマンド型（動画などの配信）・ハイブリッド型（併用型・対面授業（通常の授業）といった4つの型の組み合わせとなったとのこと。『デザイン基礎（大学1年対象）』という講義は動画（オンデマンド型）＋課題提出＋フィードバック動画（オンデマンド型）＋発表（通常授業）の組み合わせで行っているとのこと。短期間で授業の構成

が大きく変化したといえます。一方で大学側が対応に苦慮している問題としてあげているのは、実験や実技科目への対応とオンラインを続けることによる学生の学ぶ意欲の喪失やメンタルケアの必要性とのこと。特にオンライン講義を聴き続けることに飽きて学ぶ意欲が逆に喪失していく学生が多くなることです。むしろ従来の対面授業の方が授業前後の友人や教員との雑談などがあり、教室という空間があったことが結果として学生の学ぶ意欲の向上につながっていたのではないかと再評価がなされています。本校では6月以降、対面授業に戻りましたが、電子黒板を含むICT機器と通常授業をどのように効果的に組み合わせ使用かは引き続き課題となつていきたいと思います。それは生徒の学力とモチベーションアップのためでもあります。『主体的・対話的で深い学び』を自指するための授業改善にも通じるからです。

【緊急事態宣言と大学入学共通テスト】

政府は1月7日から2度目

の緊急事態宣言を発令し、秋生田文科相は大学入学共通テスト（以下共通テスト）について感染防止を徹底しながら予定通り実施することを表明しました。そのため、生徒は濃厚接触者となった場合の対応や一週間前からの検温など大学入試センターからの細かい指示に従い、試験会場へ行くのにも従来のバス利用が保護者による送迎のいずれかを選ぶなど感染予防を意識した対応を余儀なくされました。そして1月16日・17日の両日、3年生256名が緊張感を漂わせつつも無事全員が筑波大学会場第1回の共通テストを受験することができました。

から導入の予定でしたが、昨年12月に導入見送りが表明されました。しかし、今回の試験問題を見れば、身近な話題を扱いつつも、複数の資料や図を読み解く形式の問題が各教科で多く出題されていて、入試改革の意図の浸透がうかがえる内容となっていました。

さて、難化が予想されていた共通テストに対して、本校生はかなりの準備や対策をして臨みました。この準備が功を奏したか、ふたを開けてみるとセンター試験とほぼ変わらない平均点でした。本校生の健闘がうかがえる得点で、国語の平均点が6割超え、数学・英語の平均点がほぼ6割だったほか、5割を下回る科目はなく、生物は高得点となり、現代社会は最低点となりました。そのため1月22日に「現代社会」「政治・経済」「物理」「化学」を対象に得点調整が行われました（詳細下記）。

共通テスト後は自己採点、自己採点データの発送、リサーチの返却、志望校判定会

議、三者面談による受験校決定、私大および国公立大の出願と続きます。この予定調和を突き崩すような動きが1月23日にありました。宇都宮大学の個別試験（二次試験）中止の一報でした。本校でも受験者が多い宇都宮大学は緊急事態宣言を受けて前期日程・後期日程ともに個別試験を行わず、共通テストの得点のみで合否を決めることにしたので。他にも横浜国立大は昨年7月時点で個別試験の中止を決定していますし、広島大や富山大・信州大の一部学部などは、感染拡大状況によつては中止するとの予告をしました。このほか東京外国語大は、試験開始時間を午後150分から90分に短縮すると発表しています。こうした大学独自の動きに対して文科省は22日にすべての国公立大に対し、個別入試の中止や変更については慎重に検討するよう文書で求めました。個別入試の実施方法が直前に変わると、受験生が大きな不利益を受ける可能性があるからで、特に出願開始後（1月25日以降）は予定通り実

施するよう要請しました。

今後、社会情勢の変化や混乱によってさらに入試の状況が変わる可能性があります。3年生には最新の情報に注意しつつ、自分を信じて全力を尽くして欲しいと思います。未曾有の事態に翻弄された学年ではありますが、禍転じて福となるように、自分なりの方法で重ねてきた努力が報われるように祈っています。最後になりますが、コロナの感染が広がっている地域で受験をする3年生は慎重に予防をして、気をつけて受験してきてください。

各学年の現状

一学年 概況

一学年主任 廣岡 大介

紫西会報
新型コロナウイルスの流行により入学式直後より約二ヶ月に渡る休校を経て、やっと下館一高での本格的な高校生活が始まりました。学習面では、中学校とは比較できないほど勉強の量も質も高まり、生徒達は日々の授業の予習や

課題に懸命に取り組んでいきます。部活動も同様で、練習時間が長くなり競技のレベルも上がったため勉強との両立は大変ですが多くの生徒が先輩達の背中を追いつながら運動や文化的活動において充実した日々を送っているようです。生活面では、明るく挨拶ができる生徒が多く、素直で、クラス行事や学校行事にも主体的に関わって楽しめ、基本的な生活習慣も身につけているようです。

学校行事が中止や規模の縮小を強いられる中ではありましたが、今年の主な行事を振り返ってみますと、9月に「館力マッチ」が行われました。これは隔年開催の「館力祭」(体育祭)と毎年開催の「クラスマッチ」を融合した企画です。生徒達は級友達と各競技を楽しむと同時に、クラスの仲間と精一杯声援を送り、クラスの団結力や絆を一層深めた思い出深い一日となりました。キャリア講演会では社会の第一線で活躍する新聞記者や自動車の開発者等の方々から各仕事の具体的な内容や大学・高校時代のお話を伺うことができました。生徒達

は真剣に耳を傾けて今後の高校生活や自分の進路選択の糧とすることができたようです。英語研修では「東京グローバルゲートウェイ」を訪れ、英語研修を行ってきました。少人数の班に必ず一人ネイティブスピーカーが付き添い、英語を使って薬局で買い物をしたりレストランで注文したりするなど実践的に英語を使うことができ、充実した一日を送ったようです。

来年度も一人一人が目標に向かって「情熱」と、困難に負けずに努力を続ける「粘り強さ」を併せ持てるよう指導・支援して参ります。

二学年 概況

二学年主任 海老澤 淳子

「コロナ禍でこれまで当たり前前にできていたことができなくなり、1年が経とうとしています。昨年度末の合唱コンクールの中止等、ほとんどの行事が中止または縮小しての実施となり、休校で授業さえてできない期間もありました。そして、いつ終わるのかわからない先の見えない状況にみんなが不安な1年となりました。

た。

そんな中で、リモートでのホームルームや、動画配信による授業、オンラインでのテストの実施など新しい試みにチャレンジしました。学校が再開してからは、休業日を授業日に振り替えたり、ICTを活用したりしながら、学習の遅れを取り戻そうと日々頑張っています。経験の無いことを行うのは容易ではありませんが、できることはやろうという意気込みで、試行錯誤しながら乗り切っていると思います。

2年生の最も大きな行事である修学旅行も実施できるかどうか分からない状況になりました。昨年度からの計画では台湾へ行く予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大で、海外への渡航ができなくなり、実施が危ぶまれました。しかし、保護者アンケートの結果、行き先を変えて実施してほしいとの意見が多かったため行き先を国内に変更して実施することにしました。そして行き先を北海道に変更して、十月十四日(日)からの3泊4日の全行程を全員参加で無事

に終えることができたのです。大倉山展望台や白い恋人パークの見学、ラフティング体験、小樽散策、昨年開業したウポポイでは、アイヌ民族の文化や生活に触れることができました。久しぶりの修学旅行生だということで、現地の方々や、航空会社のCAさん達もとても歓迎して喜んでくださいました。残念ながらその後感染は拡大し、第三波、外出自粛、医療崩壊危機と再び不安な毎日となってしまいました。計画段階で「修学旅行は行けたら奇跡」と思っていました。無事に終えた今本当に奇跡だったと実感し、ほんとうによかったと思います。

コロナ禍で制約が多く、毎日何回も検温したりアルコール消毒をしたり、高校生らしい自由研修もほとんどできていません。しかし、そんな中でも楽しんでる姿を見て、改めて生徒達の頼もしさや優しさを感じる達成感のある修学旅行となりました。

さて、これまでもそうであつたように、『2年生は修学旅行を終えたら受験生になる』ことが現役合格のための条件です。どんな仕事をした

のか、大学で何を学びたいのか、まだ決められない生徒が大半です。しかし、学力を高めていくことで一人一人の可能性を広げられるはず。私達は、学習環境を整え、学習意欲を維持していくことを第一に考え、生徒を応援したいと思っています。

最高学年であり、大学入試に向かって大きなチャレンジをするここからの1年は人生を大きく変える1年です。教師も生徒も目標に向かって、最後まで決して諦めずに挑み続けて行きたいと思っています。

三学年 概況

三学年主任 薄井 裕美

高校生活最後の一年。本来であれば、受験生としての準備に明け暮れるはずでした。しかし、実際は数日間の登校の後の休校、分散登校。一体いつになったら通常の学校生活に戻れるのだろうかと思いつつながら過ごした一年でした。

学校再開後も部活動の試合が中止され、三年間の集大成ができないまま引退することになり、最上級生として臨むはずだった館力祭やクラス

報 西 会

マッチも延期になりました。区切りとなる試合や行事がなくなることで、受験生への切り替えが非常に難しかったと思います。

これまでも、センター試験が共通テストに変わり、実施予定だった英語の民間検定試験に続いて記述式問題も見送られるなど、急な変更にも翻弄されてきましたが、夏のオープンキャンパスがWEB実施になったり、入試の内容が変更になったりと、先が見えない不安と戦った一年だったと思います。

そのような中でも受験は確実に迫ってきます。夏休みは目標と現実の差を確認し、その差を埋めるために自分で計画を立てて勉強する、受験生にとってはおも大切な時期なのですが、今年は休校中の授業の補填のために自主学習の時間が十分に取れないまま九月を迎えました。なかなか受験生になりきれない生徒たちを前に、試行錯誤する毎日が続きました。学年集会も従来とは異なる形での実施となりましたが、どんなに例年と異なる状況であっても、基本の徹底が何よりも重要なこと

に変わりはないということを伝え続けました。授業を大切にする、地道な努力を継続すること、規則正しい生活・睡眠と食事・適度な息抜きの大切さ、当たり前のことばかりですが、それが難しいのです。

気温が低くなるにつれ、新型コロナウイルスの感染者はますます増加し、無事に入試が実施できるのかという不安を感じながらの受験勉強は、精神的にかなり苦しかったと思います。それでも徐々に受験生らしくなったと感じることが増えてきました。

年が明け、共通テストが終わり、次は私立大学の入試と国公立大学の二次試験です。今感じるのは、受験を通して成長した生徒がたくさんいるということです。受験という経験をすることは大きな意味を持つと私は思っています。もちろん志望大学に合格するに越したことはありませんが、一番大切なのは受験を通して何を学べたかだと思います。受験を終えた生徒たちなどのような姿を見せてくれるか、楽しみにしています。

進路状況

1/29 現在

国公立大 (10名)

- ・茨城大学 2名
- ・宇都宮大学 2名
- ・群馬大学 2名
- ・県立医療大学 2名
- ・筑波大学 1名
- ・福島大学 1名

私立大学 (40名)

- ・麻布大学 1名
- ・国際医療福祉大学 4名
- ・埼玉学園大学 1名
- ・北海学園大学 1名
- ・茨城キリスト教大学 1名
- ・大妻女子大学 1名
- ・北里大学 1名
- ・共立女子大学 1名
- ・慶応義塾大学 1名
- ・自治医科大学 1名
- ・実践女子大学 2名
- ・成蹊大学 1名
- ・玉川大学 1名
- ・中央大学 1名
- ・東京家政大学 2名
- ・東京国際大学 1名
- ・東京電機大学 2名
- ・東洋大学 1名
- ・常磐大学 1名
- ・日本大学 1名
- ・日本薬科大学 1名
- ・白鷺大学 1名

・文教入学 2名

・法政入学 1名

・武蔵野大学 2名

・明治学院大学 3名

・明治入学 1名

・大阪芸術大学 1名

・つくば国際大学 1名

・帝京入学 1名

専門学校 (8名)

- ・千葉・サイナー学院 1名
- ・さくら総合専門学校 1名
- ・つくば看護専門学校 2名
- ・日本工学院八王子校 1名
- ・大宮こども専門学校 1名
- ・HAL東京 1名
- ・神田外語学院 1名

就職 (2名)

- ・陸上自衛隊一般曹候補生 1名
- ・筑西消防署 1名



主な大学合格者数

(年度は入試年度です。)

(主な国立大学)

大学名	R2年度	(令和元年)31年度	30年度	29年度	28年度
東北	1	0	1	1	1
山形	4	3	2	5	3
福島	6	8	2	3	5
茨城	20	24	26	20	16
筑波	5	4	5	3	5
宇都宮	13	7	12	17	12
群馬	7	3	2	5	1
埼玉	9	15	5	6	6
千葉	1	1	2	0	1
東京	0	1	0	0	0
一橋	0	0	0	0	1
東京工業	1	0	0	0	1
東京学芸	0	2	1	0	1
横浜国立	0	0	0	1	0
その他	5	8	9	5	11
国立大計	72	76	67	66	64

(主な公立大学)

大学名	R2年度	(令和元年)31年度	30年度	29年度	28年度
高崎経済	1	6	11	10	6
県立医療	5	2	1	2	3
首都大東京	0	1	0	1	1
横浜国立	0	1	0	1	1
その他	20	14	14	22	26
公立大計	26	24	26	36	37

(主な私立大学)

大学名	R2年度	(令和元年)31年度	30年度	29年度	28年度
国際医療福祉	17	14	15	10	7
獨協	17	8	12	15	16
文教	16	10	25	13	14
青山学院	3	0	0	0	3
大妻女子	4	1	9	7	5
北里	2	7	2	1	2
慶應	1	1	2	1	5
國學院	3	5	3	0	1
駒澤	5	8	16	8	18
芝浦工業	4	10	4	12	10
上智	0	0	0	0	0
専修	7	5	3	7	11
中央	3	3	5	5	8
津田塾	0	2	0	1	1
東京女子	1	2	5	3	0
東京薬科	0	1	0	0	0
東京理科	2	4	1	4	6
東洋	31	47	49	57	48
日本	38	22	14	30	22
日本女子	0	3	0	0	0
法政	7	5	6	13	12
東京都市	0	1	1	4	2
明治	4	3	4	2	11
明治学院	5	5	3	7	10
立教	4	3	1	5	6
早稲田	1	6	0	1	3
その他	327	270	325	377	385
私立大計	502	446	505	583	606

進路決定先人数

年度	国公立大	私立大	短期大学	専門学校	就職	未定・他	卒業者数
R2	77	172	4	3	1	19	276
31	84	146	2	13	1	27	273
30	83	152	1	6	1	29	272
29	82	162	2	8	5	16	275
28	87	156	4	5	1	18	271
27	102	138	0	7	2	18	267

2021年度大学入試センター試験平均点

科目	国語	世界史B	日本史B	地理B	※現代社会	倫理政経	数ⅠA	数ⅡB	物理基礎	化学基礎	生物基礎
本校平均	121.0	69.9	65.5	58.4	56.9	77.3	56.8	55.0	33.1	24.4	32.4
全国平均	116.1	65.8	66.1	62.5	54.3	69.2	59.2	62.9	38.1	25.6	30.2

科目	地学基礎	※物理	※化学	生物	英リーディング	英リスニング
本校平均	32.4	52.0	42.2	73.2	58.6	56.5
全国平均	34.7	58.9	52.8	73.1	60.4	57.2

・全国平均は中間発表のものです。
 ・※は得点調整が行われた科目です。理科と公民で平均点の差が15点程度になるように、最も高い「倫理」「生物」は据え置いた上で、公民の「現代社会」「政治・経済」、理科の「物理」「化学」で受験者の本来の得点に応じて1～8点加算する措置がとられました。素点ごとの換算表は大学入試センターのホームページをご覧ください。

学 校 生 活



進路講演会（二年）



スマホ講演会（一年）



英語研修



修学旅行



イングリッシュスタディ
（附属中）



五校連携（附属中）



進路講演会（三年）



野球壮行会



館力マッチ



学校説明会



入学式・附属中開校式



校外学習（附属中）

部活動紹介

全国大会出場

スキー部

☆全国スキー競技会

ジャイアントスラローム 増淵 叶佳(大和中)

谷嶋 玲香(大和中)

文芸部

☆京丹後市小町ろまん全国短歌大会

大賞 特選 遠藤 朱潤(下館中)

金子 笑(結城東中)

佐藤 真耶(下館南中)

秋田花奈瑠(下館西中)

☆宮城二記念館全国短歌大会

魚沼市長賞 金子 笑(結城東中)

☆斎藤茂吉記念短歌フェスティバル

最優秀賞 金子 笑(結城東中)

優秀賞 秋田花奈瑠(下館西中)

関東大会出場

ライフル部

☆関東高等学校ライフル射撃競技選抜大会

【エアライフル立射60発競技】

(個人出場) 荒山 未羽(桃山学園)

(個人出場) 竹村 日那(久下田中)

軟式野球部

☆関東高等学校軟式野球大会

硬式野球部

1 「強い」チームとなり、全員野球で春の県大会に出場し、勝利すること。

2 二五名

3 グラウンド

4 月曜日以外の平日、休日

サッカー部

1 県大会出場を目標に日々練習に取り組んでいます。

2 選手 四十名

マネージャー 六名

3 グラウンド

4 基本月・木以外

男子バスケットボール部

1 県西大会優勝、県大会ベスト十六を目指し、日々精進しています。

2 プレイヤー二三名

マネージャー三名

3 体育館

4 基本木曜以外

女子バスケットボール部

1 「全力奪取」のスローガンのもと、県大会出場を目標に、日々練習に励んでいます。

2 プレイヤー 十一名

マネージャー 三名

3 体育館

4 木曜日以外

部活動紹介

1 目標 2 人数
3 場所 4 活動日

軟式野球部

1 チーム一丸で粘り強い野球をし、関東大会に出場する。

2 部員十八名

マネージャー四名

3 グラウンド

4 日曜以外

バドミントン部

1 男女共に個人・団体県大会出場を目標に、日々練習に取り組んでいます。

2 二年生十名

一年生二名

3 体育館

4 火曜日以外の平日・休日

弓道部

1 インターハイ出場と自己の鍛錬を目標に日々の練習に励んでいます。

2 二年生一四名

一年生一三名

3 弓道場

4 月曜日・土曜日

剣道部

1 関東・全国大会出場を目標に心を磨き、毎日強くなれるよう、稽古に励んでいます。

2 男子九名 女子五名

中学生三名

3 格技場

4 平日火・金 土日祝祭日



硬式テニス部

- 1 テニスも身体能力の向上だけでなく、心も人として成長することです。
- 2 男子六名 女子二名
- 3 県西公園 学校コート
- 4 水・木・土・日

ライフル射撃部

- 1 日々の積み重ねを大切に、関東・全国大会出場を目標に練習に励んでいます。
- 2 一五名
- 3 旧定時制給食室 茨城県 常陸大宮射撃場
- 4 平日午後六時まで 土曜午前中

陸上部

- 1 一人一人が明確な目標を持ち、部員全員が県大会出場を目標に練習に励んでいます。
- 2 一六名
- 3 ハンドボールコートの横
- 4 日曜日以外

スキー部

- 1 自分のベストを尽くせるように助け合いながら練習する。
- 2 三名
- 3 各スキー場
- 4 冬季



ダンス部

- 1 観客の方々に多くの元氣と笑顔を届けることを目標に日々練習に取り組んでいます。
- 2 二年生一八名
- 3 ブール跡 紫西会館
- 4 毎週火・水・金 土

柔道部

- 1 男子団体関東大会出場 女子個人県大会入賞
- 2 二年生六名 一年生六名
- 3 格技場二階
- 4 月曜日・土曜日

男子バレーボール部

- 1 県西地区大会優勝、県大会ベスト八を目標に日々の練習に励んでいます。
- 2 選手十名
- 3 マネージャー四名
- 4 月・水休み

女子バレーボール部

- 1 県大会六位以内を目標に日々練習に取り組んでいます。
- 2 選手一一名
- 3 マネージャー二名
- 4 体育館
- 水曜日以外



男子ソフトテニス部

- 1 個人では全ペア県大会出場、団体では県ベスト八を目標に、日々精進しています。
- 2 二三名
- 3 テニスコート 県西運動公園
- 4 基本月曜以外

女子ソフトテニス部

- 1 個人では全ペア県大会出場、団体では県ベスト八を目標に練習に励んでいます。
- 2 九名
- 3 下館一高テニスコート
- 4 月曜日以外

水泳部

- 1 夏の大会で全員がベストタイムを更新することを目標に、全力で頑張ります。
- 2 一年生三名 二年生三名
- 3 各スイミングスクール
- 4 火・水・木 金・土・日

登山部

- 1 夏に三千メートル級の山に全員で登頂する。
- 2 一年二名 二年生三名
- 3 物理室(ミートイック)
- 4 土・日曜日の、月に二・三回



卓球部

- 1 コロナで大会が少なくなる少しでも多くの結果を残せるよう日々努力しています。
- 2 二年生九名 一年生六名
- 3 卓球場(旧給食室)
- 4 火曜日・日曜日

- 1 全員が初心者ですが、一試合でも多く勝てるように、日々練習に励んでいます。
- 2 七名
- 3 ハンドボールコート
- 4 月曜と土曜または日曜休み

ハンドボール部

- 1 コロナで大会が少なくなる少しでも多くの結果を残せるよう日々努力しています。
- 2 二年生九名 一年生六名
- 3 卓球場(旧給食室)
- 4 火曜日・日曜日

- 1 全員が初心者ですが、一試合でも多く勝てるように、日々練習に励んでいます。
- 2 七名
- 3 ハンドボールコート
- 4 月曜と土曜または日曜休み

英語部

- 1 ALIとの交流や映画鑑賞などを通して、日常会話の上達を目指しています。
- 2 一年生二名 中学生二名
- 3 多目的室 二の二
- 4 毎週火・金曜日

ボランティア部

- 1 地域との交流を大切にし、一人でも多くの方に役に立つ。
- 2 三名
- 3 談話室
- 4 毎週月曜日の昼休み

紫西会報

- 1 コロナで大会が少なくなる少しでも多くの結果を残せるよう日々努力しています。
- 2 二年生九名 一年生六名
- 3 卓球場(旧給食室)
- 4 火曜日・日曜日



文芸部

- 1 部員全員が、それぞれコンクールや大会に向けて日々励んでいます。
- 2 二年生六名 一年生一名
- 3 談話室
- 4 毎週水曜日

- 1 一回の定期演奏会で皆の心に響く演奏する。
- 2 二年生九名
- 3 相談室(平日月曜除く) 鳳来館(土日どちらか)
- 4 平日(月曜除く)

ストリングオーケストラ部

- 1 夏の野球応援や、学校と地域の行事で見ている人に笑顔を届けられるように頑張ります。
- 2 二年生二名 一年生七名
- 3 体育館ステージ
- 4 火曜日、木曜日、金曜日

チアリーディング部

- 1 茨城美術展覧会などの作品展に向けて、日々努力し、入選する。
- 2 四名
- 3 特別棟三階図書室
- 4 毎週水曜日(それ以外は自主練習)

書道部

- 1 茨城美術展覧会などの作品展に向けて、日々努力し、入選する。
- 2 四名
- 3 特別棟三階図書室
- 4 毎週水曜日(それ以外は自主練習)

茶道部

- 1 茶道を通して、日本文化に触れながら、お点前の技術向上を目指します。
- 2 二年生四名 一年生五名
- 3 茶道室
- 4 毎週火曜日



茶道部

- 1 茶道を通して、日本文化に触れながら、お点前の技術向上を目指します。
- 2 二年生四名 一年生五名
- 3 茶道室
- 4 毎週火曜日

- 1 美大進学、作品展への出品を目標に、美術の基礎、基本を学び、技術を向上させる。
- 2 五名
- 3 特別棟二階西側突き当たり美術室
- 4 平日いつでも

美術部

- 1 聞いている人も自分たち自身も楽しめる演奏をする。
- 2 二年生二名 一年生一七名 中学生七名
- 3 音楽室
- 4 平日、土曜日

吹奏楽部

- 1 理科にあてはまるすべてを対象とした部です。中等部から気軽に入部できます。
- 2 二年生一名 一年生三名
- 3 化学室
- 4 毎週火曜

理科部

- 1 理科にあてはまるすべてを対象とした部です。中等部から気軽に入部できます。
- 2 二年生一名 一年生三名
- 3 化学室
- 4 毎週火曜

化学部

- 1 理科にあてはまるすべてを対象とした部です。中等部から気軽に入部できます。
- 2 二年生一名 一年生三名
- 3 化学室
- 4 毎週火曜



写真部

- 1 私たち写真部は楽しい、おもしろいをモットーに活動しています。
- 2 高校四名 中学生六名
- 3 生物室
- 4 毎週木曜日

放送部

- 1 全国大会出場を目標に、発声練習やドラマ等の作成をしています。
- 2 二年生四名 一年生四名
- 3 放送室
- 4 平日月々金

軽音楽部

- 1 七曜祭に向けて技能向上、交流を通じて音を楽しくすることを目標に練習に励んでいます。
- 2 二年生七名
- 3 一年生十一名
- 4 保健室前部室棟 毎週話し合いで決めた曜日



令和二年度

職員異動

- 一 退職者
校長(理科) 川松 秀夫
講師(英語) 柳橋 晃代
- 二 転出者
教頭(国語) 山田 伸一
(校長 明野へ)
教諭(英語) 日向 久
(教頭 境へ)
教諭(数学) 増淵 広道
(下館工へ)
教諭(理科) 大林 克
(下妻二へ)
教諭(数学) 寒河江雄一
(水海道二へ)
教諭(国語) 鈴木 康弘
(高校教育課へ)
講師(音楽) 小林 剛
(石下紫峰へ)
非常勤(社会) 篠崎 順子

- 三 転入者
校長(英語) 赤田部清浩
(三和より)
教頭(社会) 早川 尚人
(下館一より)
教諭(音楽) 大坪 範子
(新規採用)
教諭(情報) 神長 寿夫
(新規採用)
教諭(数学) 六澤 奏未
(新規採用)
教諭(国語) 皆川 聡
(下妻二より)
講師(数学) 倉持 雄大
(岩井中より)
教諭(英語) 笠原 一昌
(下妻一より)
教諭(英語) 篠崎 明子
(鬼怒岡より)
教諭(英語) 篠崎 明子
(水戸南より)
教諭(数・技) 渡邊 康男
(結城二より)
教諭(国語) 中原 宥朋
(星野 雅一)
教諭(理科) 松下 興大
(下大野小学校より)
教諭(社会) 浅井奈々子
(水海道一より)
主任 (県西教育より)
石塚 美穂

令和二年度

同窓会学年幹事

- 一組 神山 真綾
齊藤 和輝
二組 佐藤 舞菜
小嶋 伯
三組 堀川 瑛杜
大倉 若葉
四組 山崎 泰成
板橋 雄大
五組 大和田一貴
篠崎 修汰
六組 飯田 莉子
間中 桐子
七組 小神野健太
濱野 初華

編集後記

今回初めて編集の仕事に携わるにあたり、お忙しい中、快く寄稿下さった同窓会長の林様をはじめ、教育委員会の中庭先生、諸先生方、生徒諸君にこの場を借りて御礼申し上げます。ご協力ありがとうございました。

編集の作業を通じて、下館一高が紡いできた歴史の重みを感じるとともに、私自身もようやく下館一高の仲間入りを果たせたという感慨を覚えております。

さて、同窓会長の林様の御挨拶にありますように、我が母校も令和5年(2023年)に創立百周年事業を控えております。百周年を見据え、多くの方々のご協力を得、私自身も一同窓生として微力ながら尽力していく所存です。

中原宥朋 記

紫西会報では、下館一高を卒業された方の記事をお待ちしております。クラスの開催報告など、お便り、FAX、電子メールでお寄せください。学校代表メールアドレス koho@shimodate-h.ikx.ed.jp

編集委員 中原 宥朋

写真提供 星野 雅一
鈴木写真館